

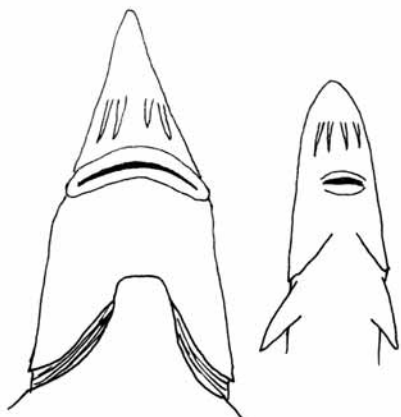
# チヨウザメの口は語る



2004年  
石狩川河口にて混獲

石狩で「サメ」と言えば、チヨウザメ。石狩弁天社にはチヨウザメの神様「妙亀法鮫大明神」が祭られているほど、石狩とは縁の深い魚です。

チヨウザメは、カスピ海、バルト海、ロシアや北米大陸の沿岸など、北半球の河川、湖、海に生息する大型の魚です。サメやエイの仲間（軟骨魚類）ではなく、サケやイワシなど、いわゆる普通の魚の仲間（硬骨魚類）です。大正時代くらいまで、石狩川にはたくさんチヨウザメが産卵のために海から遡上（そじょう）してきましたが、今では見ることができません。ごくまれに、河口や沿岸で混獲されることがあるくらいです。そのチヨウザメの特徴の一つは、頭部の下面（腹側）に開いた口。この口、実はいろいろな意味を持っているのです。



ダウリアチヨウザメ（左）とミカドチヨウザメ（右）の口の違い（腹面）。ダウリアは非常に大きな口をもっています。そのほか、頭の先の形、左右のえらの間などに違いが見られます（尾本・前林、2000；Omoto, 2004を参考に作図）。

でエサを探り、飲み込む（チヨウザメに歯はありません）のです。反対に、この口の位置があだとなることもあるようです。サケやイワシのような、体の先端に口がある魚とのエサの奪い合いの競争には、非常に不利だからです。

一口にチヨウザメと言っても、その種類は17〜27種にも及びます（分類が未確定なものが多い）。その中でも北海道近海で主に見られるのが、ミカドチヨウザメとダウリアチヨウザメの2種です。ミカドチヨウザメを含む *Acipenser* 属というグループと、ダウリアチヨウザメの属する *Huso* 属とを簡単に区別するキーポイントの一つが、口の大きさ。 *Acipenser* 属の口に比べて、 *Huso* 属の口は、明らかに大きいのです。このことから、標本や写真の残っている昭和44年以降に石狩周辺（河口や沿岸）で混獲されたものは、すべてダウリアチヨウザメであることが分かります。 *Huso* 属はチヨウザメの仲間でもっとも大きくなるグループ（最大8m）ですが、それは大口が可能にした大食漢だからなのかもしれません。

（志賀健司）

弁天社の「鮫様」は、いったいどちらの種類なのでしょうね。

## テーマ展

### 「石狩のチヨウザメと鮫様」

2005年に石狩湾で混獲されたチヨウザメの剥製（北海道開拓記念館収蔵標本）を初公開。さらに！道指定文化財となった石狩弁天社の鮫様「妙亀法鮫大明神」像も特別展示します！

- 期間／4月28日（土）～6月4日（月）
- 場所／いしかり砂丘の風資料館
- 入館料／5月1日から大人300円

2005年  
石狩湾沖にて混獲

